

群 教 七	G10 - 01
	平27.257集
	道 徳

# 相手の気持ちや立場を考えて 行動しようとする児童の育成

——道徳の時間における発問と  
授業の振り返りの工夫を通して——

特別研修員 上田 美果

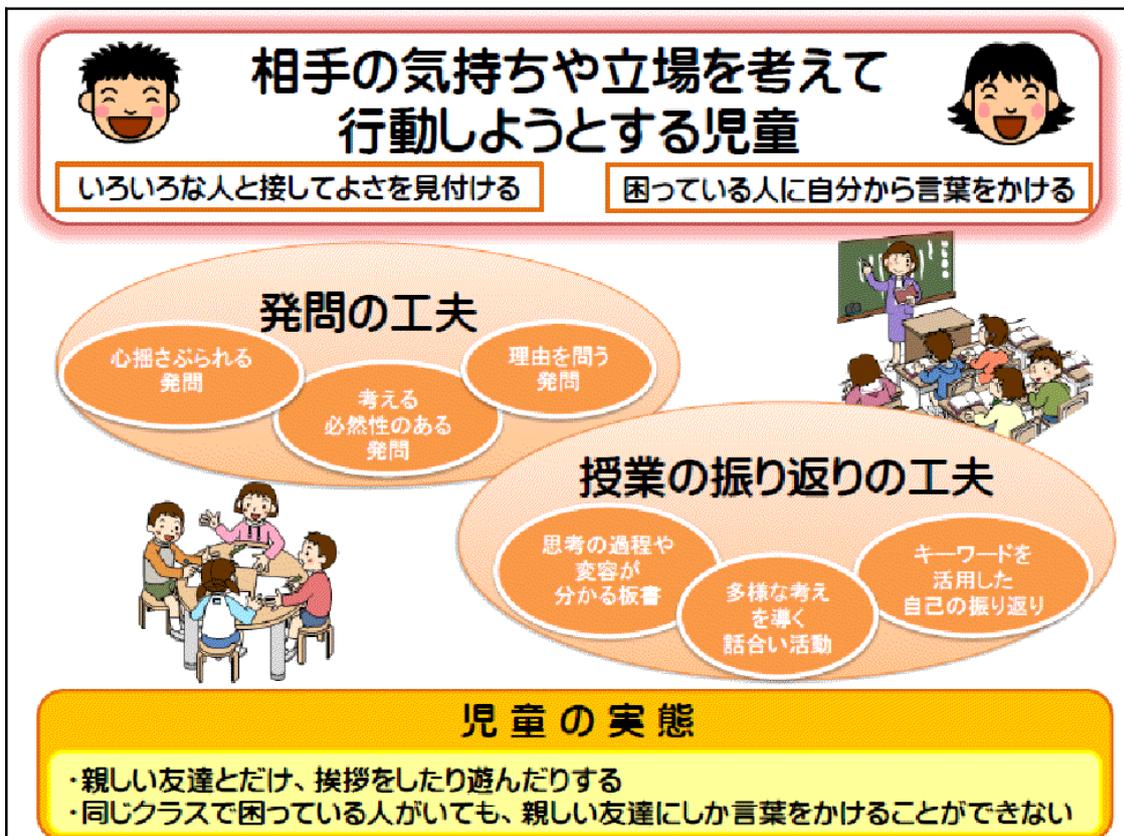
## I 研究テーマ設定の理由

平成27年3月に告示された一部改正小学校学習指導要領には、「教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要である」と示されている。さらに、「発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である」と述べ、指導方法の中でも、特に発問の工夫を重視している。また、はばたく群馬の指導プランにおいては、「児童生徒の心を動かし、思考や話し合いを深めるためには、発問が重要な鍵になります。児童生徒の意識の流れを予想し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるよう発問を工夫しましょう」と示されている。

本学級の児童は、道徳的価値のよさや大切さを理解し、善悪の判断は付いている。しかし、時と場に応じた望ましい行動をとれるまでには至っていない。そこで、道徳の時間において、道徳的価値についての自覚を深める「発問」を工夫し、話し合い活動や板書から導いたキーワードを活用して「授業の振り返り」をすることで、相手の気持ちや立場を考えて行動する児童を育成できると考え、本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1) 発問の工夫

発問は、自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で、重要である。児童の心を動かし、多様な感じ方や考え方を引き出すために、「心揺さぶられる発問」、「考える必然性のある発問」や「理由を問う発問」をする。このことで、登場人物の心情を多面的にとらえ、道徳的価値を考え直したり、理解を深めたりして、授業のねらいにせまることができる考えた。

《実践1》資料名 「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール

「思いやり」という道徳的価値には多様な感じ方、考え方があることへの理解をねらい、道徳的価値を違った視点で考えさせるために「心揺さぶられる発問」をした。

《実践2》資料名 くずれ落ちただんボール箱

道徳的価値について考え直すことができるよう、「考える必然性のある発問」をした。さらにその「理由を問う発問」をし、誰のために、何のために親切にするのかを考えることで道徳的価値の意義の理解を深めることをねらった。

### (2) 授業の振り返りの工夫

自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりするために、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返りの工夫が必要である。そこで、「思考の過程や変容が分かる板書」、児童の「多様な考えを導く話し合い活動」や「キーワードを活用した自己の振り返り」を通して授業の振り返りをすれば、道徳的心情を深め、行動しようという意欲を養うことができると考えた。

《実践1》資料名 「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール

終末において、板書を使って授業を振り返り、「今日の授業で大切だと思った言葉」という視点で話し合い活動などで出された考えの中から、児童がキーワードを選び出し、教師が補足をした。これまでの自己を振り返り、「これからの生活で大切にしたいこと」についてキーワードを生かしてワークシートに記述させた。

《実践2》資料名 くずれ落ちただんボール箱

終末において、板書を使って授業を振り返り、話し合い活動などで出された考えの中から、教師が意図的にキーワードを選び出した。価値理解の深まりを見取るために、アンケートと同じ「本当の親切とは何か」についてキーワードを生かしてワークシートに記述させた。

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 児童がこれまでとは違った視点で道徳的価値について考え直したり、話し合い活動において多様な考えに触れたりすることを通して、相手の気持ちや立場を考えて行動することのよさを理解し、自分も行動できるようになりたいという意識の高まりにつながった。
- キーワードを提示する際に、ねらいとする道徳的価値とは相反するキーワードも取りあげると道徳的価値の理解を深めるのに有効であることが分かった。その価値のよさを知りながらも実践できない人間の弱さを理解し、本時で扱う道徳的価値の意義や大切さを改めて理解させることができた。

### 2 課題

- 道徳的価値にせまるための効果的なキーワードを提示するために、望まれる児童の具体的な姿を思い描き、そのための発問構成を工夫する必要がある。さらに、予想したキーワードが出ないときの補助発問を準備しておく必要がある。

## <授業実践>

### 実践 1

- 1 主題名 ほんとうの思いやり 内容項目 2 - (2) 思いやり、親切 (第5年・1学期)  
資料名 『オトちゃんルール』は『あたりまえ』のルール 東京書籍 希望を持って 道徳5

### 2 本主題及び本時について

実践1では、「思いやり」を主題とし、「相手の立場や気持ちを考えて、温かく親切にする心情を育てる」ことをねらいとした。児童は、人に親切にすることの大切さは理解している。しかし、見ず知らずの困っている人や、障害を持った人に対しては、かわいそうとか、気の毒という意識が強く、それは真の思いやりとはいえない。思いやりの心を持つためには、相手の立場に立つことが重要である。どんな立場の相手にも、同じ人間として対等に接し、助け合って生きていくことの大切さに気付かせたいと考えた。

### 3 授業の実際

導入では、事前に行ったアンケート結果を紹介し、価値への方向付けをした。そこで、親切な行いをしている対象が友達や家族など身近な人に限られていることに気付かせた。

#### <手立て1 発問の工夫>

展開後段で、中心発問や、話し合い活動を通して児童から出された思いやりに関する道徳的価値について、違った視点で考えさせるような「心揺さぶられる発問」をした。

#### 道徳的価値を違った視点で考えるような心揺さぶられる発問

T :オトちゃんがけがをしないように、見学させるのは、「思いやり」とは言えないのか。  
S1 :たしかに、オトちゃんはけがをしてしまいそうだよ。  
S2 :それもやさしさかもしれない。  
S3 :でも、オトちゃんはいっしょに遊びたがっているよ。  
S1 :オトちゃんの願いをかなえてあげたい。  
S2 :オトちゃんの気持ちを考えるのがやさしさなんだね。

ほとんどの児童が、「オトちゃんルール」を考えて一緒に遊ぶことが、「思いやり」であり、それが当たり前前と考えていた。この発問で再度、「思いやり」について考えたことで、いろいろな「思いやり」があることに気付くことができた。けがをしないように見学させるのも「思いやり」ではあるが、オトちゃんの意には沿わない「思いやり」であり、本当の「思いやり」とは、相手の気持ちを考えることが大切であるというねらいにせまることができた。

#### <手立て2 授業の振り返りの工夫>

#### 多様な考えを導く話し合い活動



図1 話し合い活動の様子

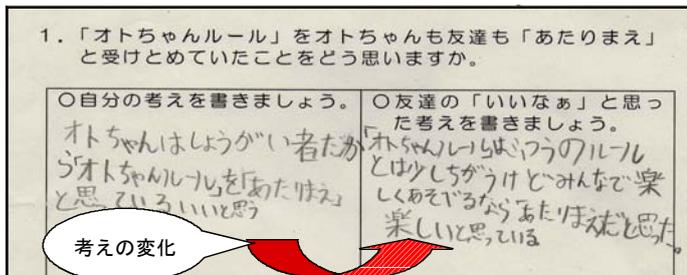
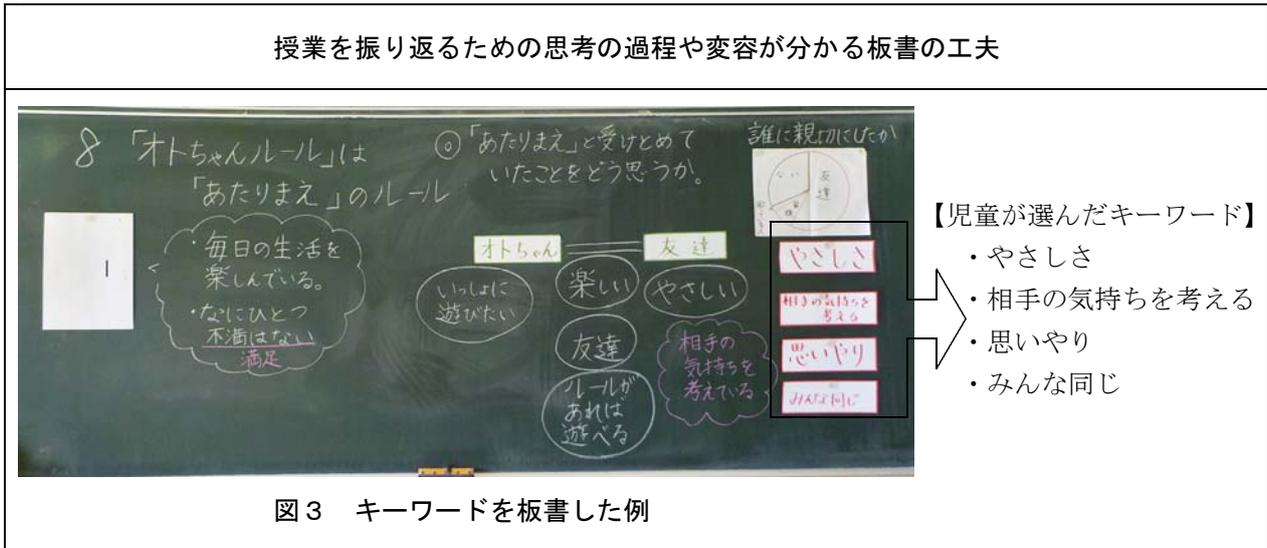


図2 中心発問に対しての児童の考えの変化

中心発問に対する自分の考えを、ワークシートに書き、話し合い活動を行った(図1)。小グループで考えを交流し、友達のよいと思う考えを右の欄に記入した。話し合い活動で多様な意見に触れることに

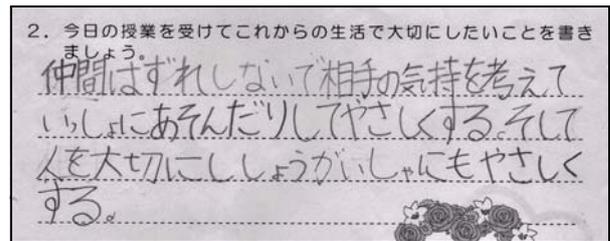
よって、「オトちゃんは障害者だから」という考えから、「みんなと楽しく遊べるから」という考えの変化も見られた（前項図2）。



終末では、板書を使って児童の発言を振り返り、児童が大切だと思うキーワードを選び出した（図3）。上記のキーワードを受けて、「今日の授業を受けてこれからの生活で大切にしたいこと」についてワークシートに考えを書かせた（図4）。児童の記述の結果は以下の通りである。

「これからの生活で大切にしたいこと」の記述結果

・仲間外れ、区別をしない	(10人)
・友達、家族にやさしくする	(9人)
・相手の気持ちを考える	(7人)
・障害者にやさしくする	(6人)
・困っている人を助ける	(5人)
・無記入	(1人)



表れてほしい姿として、「どんな人でも相手の気持ちを考える」という記述を期待したが、7人とどまり、「仲間外れをしない」や「障害者にやさしくする」と記述した児童が半数近くを占めた。これは、同じクラスの特別支援の児童を想起したことや乙武さんの映像の印象が強かったため、障害がある人に親切にしたいという強い気持ちを持ったためではないかと考えられる。

#### 4 考察

- これまで親切にしていたり、親切にしたいと思ったりしていた児童も、「相手の気持ちを考えた」親切の大切さに気付き、相手のことを考えて行動したいという気持ちを涵養することができた。
- 話し合い活動でお互いの考えを交流することを通して、自分とは異なる意見に触れたり、更に考え直したりすることで、発問のほかにも心を揺さぶられる機会を持つことができた。
- 予想以上に乙武さんの認知度が低く、映像を使った資料提示が効果的であった。映像を見たことで、乙武さんは手足が不自由であっても、野球やサッカーをして一緒に遊ぶことができるという資料の共通理解を図ることができた。また、「オトちゃんがけがをしないように見学させることは優しさではないのか」という心揺さぶられる発問をより深く考えるための手立てにもなった。
- 道徳的価値のまとめを意識して提示するキーワード絞りが足りなかったため、児童の8割が同じ記述となり、価値の押し付けとなってしまった。ねらいとする価値からずれず、多様な意見を引き出すためにはどのようなキーワードを提示すると効果的なのかを更に検討する必要がある。
- 話し合い活動での交流が、書いたものを読んだり、友達の考えを書いたりすることに終始してしまったグループが見られた。ワークシートの形式の改善、話し合い活動の司会者の育成やマニュアル化などの必要がある。

## 実践 2

- 1 主題名 困っている人のために 内容項目 2 - (2) 思いやり、親切 (第5年・2学期)  
単元名 「くずれ落ちただんボール箱」 東京書籍 希望を持って 道徳5

### 2 本主題及び本時について

実践2では、「困っている人のために」を主題とし、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる」ことをねらいとした。児童は、思いやりや親切の大切さを十分に理解し、困っている人を助けるのが親切であるという認識を持っている。しかし、親切な行いをすれば、感謝されるのは当然だと考えている児童がほとんどである。だからこそ、親切とは何のために誰のためにするのかということを考えさせ、親切な行いをした結果、自分もすがすがしくいい気持ちになるということに気付かせたいと考えた。

### 3 授業の実際

導入では、アンケート結果を紹介し、価値への方向付けを行った。そして、困っている人を助けることが親切だと考えている児童が多いことを確認した。

#### <手立て1 発問の工夫>

中心発問で、主人公の揺れる気持ちをより深く考えられるように、以下のような補助発問をした。

T: 勇気を出して親切にしたのに、店の人に誤解され叱られて、「わたし」はどう思ったか。  
S1: 親切にしたことを後悔する。こんなことをしなければ、叱られなかったから。  
S2: 後悔しない。おばあさんのためにしたことだから。おばあさんを助けられればそれでいい。

親切にしたことを「後悔する」「後悔しない」かとその理由について、ペアで考えを交流した。親切にするのはいいことであるが、誤解されたりいやな思いをしたりすることもあることに気が付いた。

T: おばあさんにお礼を言われたけれど、店員に注意されたモヤモヤはなくなったのか。  
S1: なんで叱られるのかと、やっぱりすっきりしない。  
T: 親切にすると、いつも校長先生に朝会で褒められるのか。  
S2: そんなことはめったにない。親切にしても褒めてもらえないこともある。

おばあさんにお礼を言われて嬉しかったが、すっきりしない気持ちと、校長先生に褒められたがいつもそのようなことがあるわけではないということを押さえた上で、中心発問を投げかけた。

道徳的価値を考え直す必然性のある発問		
	T: 親切にしてよかったと思ったのは、おばあさんにお礼を言われたときと校長先生の話聞いたときのどちらか。	
	おばあさんにお礼を言われたとき(3名)	校長先生の話聞いたとき(34名)
理由	S1: 親切にした相手から直接お礼を言われて思いが伝わったと思うから。 S2: 直接お礼を言われて、人助けができたと思えたから。	S3: みんなの前でほめられたから。 S4: 気持ちがすっきりしたから。 S5: わざわざ手紙を書いてくれたから S6: 誤解がとけたから。 S7: 校長先生の話聞いて、自分も親切にしようという気持ちになってほしいから。 S8: 人の役に立ってよかったと思えたから。

中心発問に対する考えには、おばあさんにお礼を言われたときが3名、校長先生の話聞いたときが34名と考えに大きな偏りが出た。しかし、親切にしたよさを感じた理由では、上記のような様々な考えが出され、話し合い活動で自分とは違う考えに触れることができた。

## <手立て2 授業の振り返りの工夫>

終末では、板書を使って児童の発言を振り返り、教師が意図的にキーワードを選び出した（図5）。

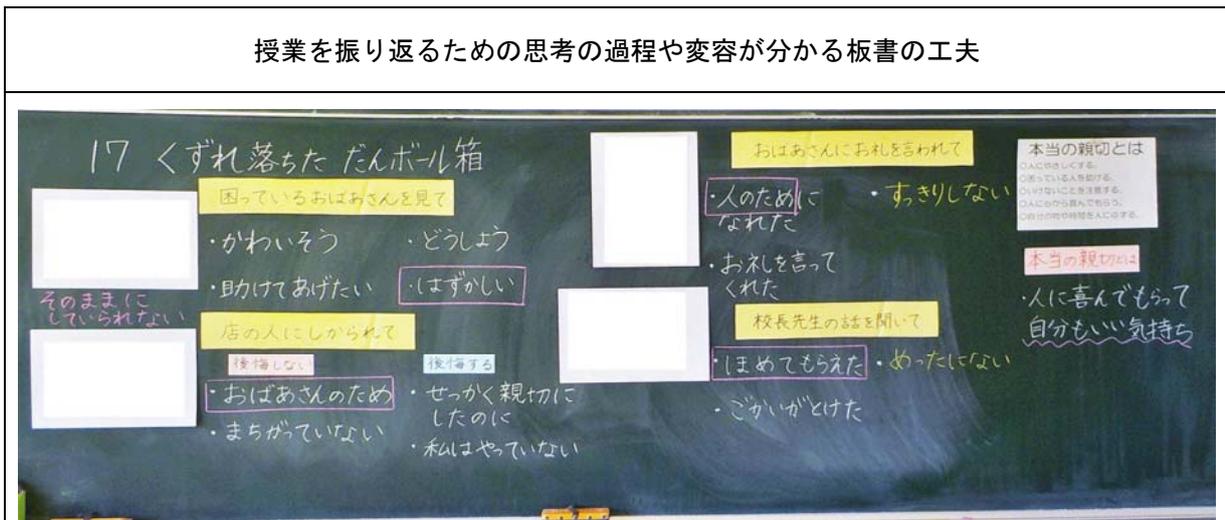


図5 キーワードを選んだ板書例

- 【キーワード】
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ○価値理解につながるキーワード | ○人間理解につながるキーワード |
| ・なんだかそのままにされない  | ・どうしよう          |
| ・人のため           | ・はずかしい          |
| ・助けてあげたい        | ・ほめてもらった        |

上記のキーワードを受けて、「本当の親切とは何か」についてワークシートに書かせた。（図6）児童の記述の結果は以下の通りである。

### 「本当の親切とは何か」の記述結果

- |                           |       |
|---------------------------|-------|
| ・どんな時も迷わず困っている人を助けること     | (23人) |
| ・相手のためになることや喜んでくれることをする   | (10人) |
| ・やさしい心を持つこと               | (2人)  |
| ・困っている人を助けて、相手も自分も嬉しくなること | (2人)  |
| ・その他                      | (1人)  |

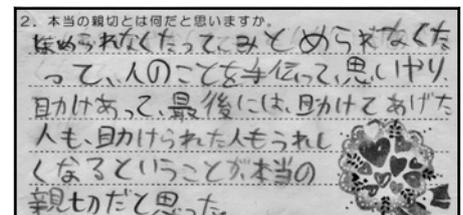


図6 ワークシートの記述例

事前アンケートと同じ「困っている人を助ける」という記述が半数を超えたが、86%の児童が、「迷わず」「すぐに」「どんな時も」など、状況や心情についての言葉を付け加えることができた。

## 4 考察

- 毎月実施している友達アンケートの、「困っている人に自分から声をかけていますか」という項目に対する回答に図7のような変化が見られ、相手の気持ちや立場を考えて行動しようとする道徳的実践意欲が高まっていると考えられる。
- ねらいとする道徳的価値に相反するキーワードを意図的に提示したが、人間理解をふまえた上で、道徳的価値を実現しようという前向きな姿勢の児童が多く見られた。
- ペアでの話し合い活動を取り入れたことで、自分の考えを気兼ねなく語り合うことができ、交流を深め、他者理解につながった。
- 自分の生活を振り返り、児童が身近に感じ実践できる親切について考える場を設定すれば、今後の生活に生かそうという道徳的実践意欲を持つことができると考える。

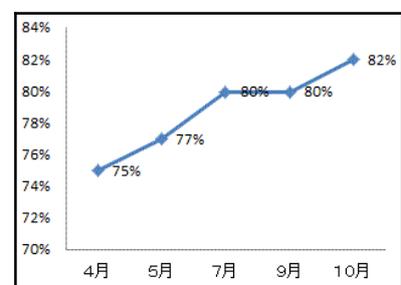


図7 友達アンケートの結果